第３学年＊組　国語科学習指導案

指導者　星　大輔
Ｒ４研修センター長期研修

１　単元名　　「観察・分析して論じよう『ポスター』の批評文」

２　本単元の目標

（１）理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに語感を磨き語彙を豊かにすることができる。　〔知識及び技能〕（１）イ

（２）文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。　〔思考力、判断力、表現力等〕Ｂ（１）イ

（３）表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。　〔思考力、判断力、表現力等〕Ｂ（１）ウ

（４）言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。　「学びに向かう力、人間性等」

３　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに語感を磨き語彙を豊かにしている。（（１）イ）	①「書くこと」において、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて文章の構成を工夫している。（Ｂ（１）イ） ②「書くこと」において、表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるよう工夫している。（Ｂ（１）ウ）	① 粘り強く自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫し、学習課題に沿って批評する文章を書こうとしている。

４　単元について

（１）教材観

本教材「観察・分析して論じよう『ポスター』の批評文」は、日常で触れる情報と同種のもの（文字と画像を組み合わせたもの）を批評の対象とし、「観察」「分析」「比較」を通して、複数の候補を検討したうえで一つのポスターを選び、それについて説得力のある批評文を書く教材である。批評の手順は段階的なものになっており、対象を客観的に把握するための「観察」「分析」をしっかり行ったうえで、「観察」「分析」から得た事柄のどれが根拠として適切かを考え、説得力のある批評文を書く。１・２年生の「書くこと」の学習の中で取り組んできた「自分なりの思考・判断をすること」に加えて、文章の構成や表現の面でも工夫をしながら書くことが求められており、論理の展開を考えて説得力のある文章を書く力を育てることに適した教材であると考える。

（２）生徒観

１学期に実施した説明的文章教材「絶滅の意味」において、筆者の主張について自分はどのように考えるか、条件作文を書く活動（令和４年＊月実施第３学年＊組＊人）を行ったところ、論理の展開を考えて説得力のある文章を書くことができた生徒は＊人であった。この結果から、本学級の生徒は、論理の展開を考えて説得力のある文章を書くことに課題があることが分かった。できなかった生徒＊人の内訳は、根拠を書くことができていない生徒が＊人、説得力のある根拠を書くことができていない生徒が＊人、根拠に説得力はあるが、論理の展開を考えて書くことができていない生徒が＊人であった。これは、これまでの学習の中で、根拠を明確にするための思考の整理や、自分の考えが分かりやすく伝わるよう、構成や表現の仕方を工夫するための学習活動が不十分だったことが原因であると考える。

（３）指導観

本単元では、中学校第３学年「観察・分析して論じよう『ポスターの批評文」において、協働的な学びを生かしながら、思考の可視化を段階的に行い、それを基に説得力のある批評文を書く活動に取り組む。具体的な流れとして、まず、「Ｘチャート」「ベン図」を用いて、思考を可視化しながら考えを整理し、「マイクロディベート」を通して自分の考えを広げたり、深めたりすることで、考えの根拠を明確にすることができるようにする。次に、「三角ロジック」を用いて、主張を導くための筋道を考え、それを踏まえて「文章構成図」を考えることで、論理の展開を考えて文章の構成を工夫することができるようにする。そして、ここまでの学習活動を生かして、下書きを書き、読み手の立場で読み合い、それを推敲に生かし、批評文を完成する。完成した批評文は、お互いに評価をし、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるよう、表現の仕方を工夫することができたか確認できるようにする。また、学習活動は小グループの形を基本とし、必要に応じて全体で共有することで、考えや疑問について対話できるようにする。このように、思考の可視化と協働的な学びを生かして批評文を書く学習活動を行えば、論理の展開を考えて説得力のある文章を書く力を育てることができるであろうと考える。

５　単元の指導計画（８時間扱い）

○は指導に生かす評価場面　◎は記録に残す評価場面

次	時	学習内容・活動	知	思	態	評価方法・留意点等
1	1	・本単元全体の見通しをもつ。 **課題**　それぞれのポスターにはどのような特徴があるだろう。 ・「Ｘチャート」について確認し、「観察」「分析」の視点を考え、全体での共有後、グループごとに四つの視点を設定する。 ・設定した四つの視点を基に、対象を観察・分析・比較し、それぞれのポスターの特徴を付箋に書く。 ・書いた付箋を視点ごとに「Ｘチャート」に貼り、それぞれのポスターの特徴についてグループで考える。 **まとめ**　観察・分析する際には、対象の特徴を多面的に捉えることが大切である。			○	・本単元では、「食品ロス」について意識を高めるためのポスター３点を観察・分析・比較し、コンクールの審査員の設定でどれが最も優れているかを判断し、説得力のある批評文を書くという言語活動を行うことを確認する。 ・ポスター３点と参考資料、ポスターを見る人、批評文について確認する。 ・グループで考えた「視点」について全体で共有することで、設定する視点の選択肢を広げられるようにする。 態①：ポスター３点の特徴について、考えをもつことができていない生徒には、四つの視点を基に、それぞれのポスターがもつ効果について考えるなど、見通しをもって批評文を書くことができるよう助言する。　【観察、ワークシート】
	2	**課題**　ポスター３点には、どんな共通点・相違点があるだろう。 ・「ベン図」について確認してポスター３点の比較をし、共通点・相違点をそれぞれ書いていく。 ・ここまでの学習を踏まえて、どのポスターが最も優れているか、現時点での自分の考えと理由を書く。 **まとめ**　どのポスターも「食品ロス」という言葉が使われているが、イラストやキャッチコピーは異なるため、伝わり方は変わる。		○		・「『食品ロス』について意識を高めるためのポスターとして最も優れているものを選ぶ」という目的を意識しながら「ベン図」に取り組むことを伝える。 ・整理したそれぞれのポスターの特徴を踏まえ、「食品ロス」について意識を高めるためのポスターとしてどれが最も優れているか考えるように伝える。 思①：学習課題に沿って批評する文章を書くためにポスター３点の比較をすることができていない生徒には、Ｘチャートに書いたそれぞれのポスターの特徴を視点ごとに比較しながら考えていくように助言する。　【観察、ワークシート】

	3	**課題**　「食品ロス」について意識を高めるためのポスターとして、どれが最も優れているだろう。 ・マイクロディベートを行い、現時点での自分の考えと理由を話し、質問をするなど、自由に意見を交わす。 ・マイクロディベート、小グループ、全体での共有を通して、考えを広げたり、深めたりし、どのポスターが最も優れているかを判断する。 **まとめ**　三点のポスターを比較し、どれが最も優れているかを判断する際には、「食品ロス」のポスターにとって大切なことは何かということをよく考え、観点をしっかりもつことが大切である。		○		・前時の学習内容を振り返り、マイクロディベートの目的･やり方を確認する。 ＜マイクロディベート＞ ・Ａ・Ｂ・Ｃそれぞれ二人ずつの６人編成を基本とし、小グループのメンバーと同じにならないように組む。 ・異なる考えをもつ人たちと意見交換をすることで自分の考えを広げたり、深めたりしながら、それを踏まえて、最も優れているものを判断することを目的としているため、お互いに現時点での考えと理由を伝え合い、自由に意見を交わすこと、マイクロディベートを通して最終的な判断をする際の考えが変わることは構わないことを伝える。 ・マイクロディベートを通して考えたことを踏まえ、全体で共有、グループ内で整理、再び全体で共有を繰り返すことで、多様な考えから自分の考えを深め、どのポスターが最も優れているか最終的な判断ができるようにする。 思①：学習課題に沿って批評する文章を書くためにどのポスターが最も優れているか判断を下すことができない生徒には、マイクロディベートを通して考えたこと、他の考えから学んだことを生かすように助言する。【観察、ワークシート】
2	4 検証授業	**目標：「書くこと」において、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。** 1　学習課題を確認する。 **課題**　説得力のある批評文を書くためには、どのようなことを考えていけばよいだろう。 2　「Ｘチャート」「ベン図」に書いたことを基に、「三角ロジック」にまとめる。 3　「Ｘチャート」「ベン図」「三角ロジック」に書いたことを基に、例を参考にして「文章構成図」を作成する。 **まとめ**　説得力のある批評文に書くためには、自分の考えの根拠を明確にし、論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することが大切である。 4　本時の振り返りをする。		◎		・前時の学習内容を振り返り、本時の学習内容について確認する。 ・「三角ロジック」を活用する目的、書き方について伝える。その際、例を示すことで「根拠」「理由」の区別がつけられるようにする。 ・「三角ロジック」で、複数の「根拠」「理由」を挙げる場合は、どの根拠と理由がつながっているか分かるように書くよう伝える。 ・疑問を解決したり、考えを広げたりできるよう、必要に応じてグループ内で対話しながら進めていくように助言をし、生徒の様子を見取ってグループにしたり、全体にしたりする。 ・「文章構成図」の作成については、例を参考にしながら、これまでの学習で取り組んできたことを生かして作成できるようにする。 ・「三角ロジック」「文章構成図」は、タブレットPCを活用してまとめる。 思①：多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。 【観察、ワークシート】 ・学習を通して学んだことを具体的に書くように促す。

3	5 6	**課題**　自分の考えが分かりやすく伝わる文章にするためには、どのような工夫が必要だろう。 ・批評文の完成例を確認し、前時に作成した「文章構成図」を基に、全体で確認した三つの視点を意識しながら、批評文の下書きを書く。 ・下書き完成後、他グループと交換し、全体で確認した三つの視点を意識しながら、読み手の立場で読み合い、気付いたことをお互いに書く。 ・他の批評文を読んで学んだこと、読み手の気付きを生かし、下書きを推敲する。 **まとめ**　自分の考えが分かりやすく伝わる文章にするためには、根拠を明確にし、主張を導くための筋道を考えて文章の構成を工夫する必要がある。	○	◎	◎	・批評文の完成例を確認し、前時に作成した「文章構成図」を基に、word の原稿用紙設定を活用して批評文の下書きを書くように伝える。 ・批評文を書く際には、「①自分の考えの根拠を明確にすることができているか。」「②論理の展開を考えて、文章の構成を工夫できているか」「③自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるよう、表現の仕方などを工夫できているか」の三つを視点にすることを確認する。 ・言葉について確認しながら進められるように一人一冊国語辞典を用意し、批評する言葉については参考資料を活用する。 知①：理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すことができない生徒は、グループ内での対話、読み合いでの助言を生かすように伝える。　【観察、原稿用紙】 思①：多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。 【観察、原稿用紙】 態①：学習課題に沿って批評する文章を書いている。【観察、原稿用紙】
	7 8	**課題**　説得力のある批評文とはどのようなものだろう。 ・前時に推敲したものを基に、批評文の清書を書く。 ・完成した批評文を共有し、批評文を書く際の三つの視点を基に、コメント機能を活用してお互いに評価をする。 **まとめ**　説得力のある批評文とは、自分の考えの根拠を明確にし、自分の考えが分かりやすく伝わるように文章の構成や表現の仕方などが工夫されたものである。 ・お互いに書いた批評文を読み合う。 ・事前に書いた批評文と、完成した批評文を比べ読みする。 ・単元の振り返りをする。	◎	◎	◎	・前時に推敲したものを基に、目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめ、文章全体を整えながら word の原稿用紙設定を活用して批評文の清書を書くように伝える。 ・完成した批評文は、Microsoft Teams で共有し、コメント機能を活用してお互いに評価をする。論理の展開などについて、読み手からの助言を踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだせるようにする。 知①：理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使っている。 【観察、原稿用紙】 思②：表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫している。 【観察、原稿用紙】 態①：粘り強く自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫している。　【観察・原稿用紙】